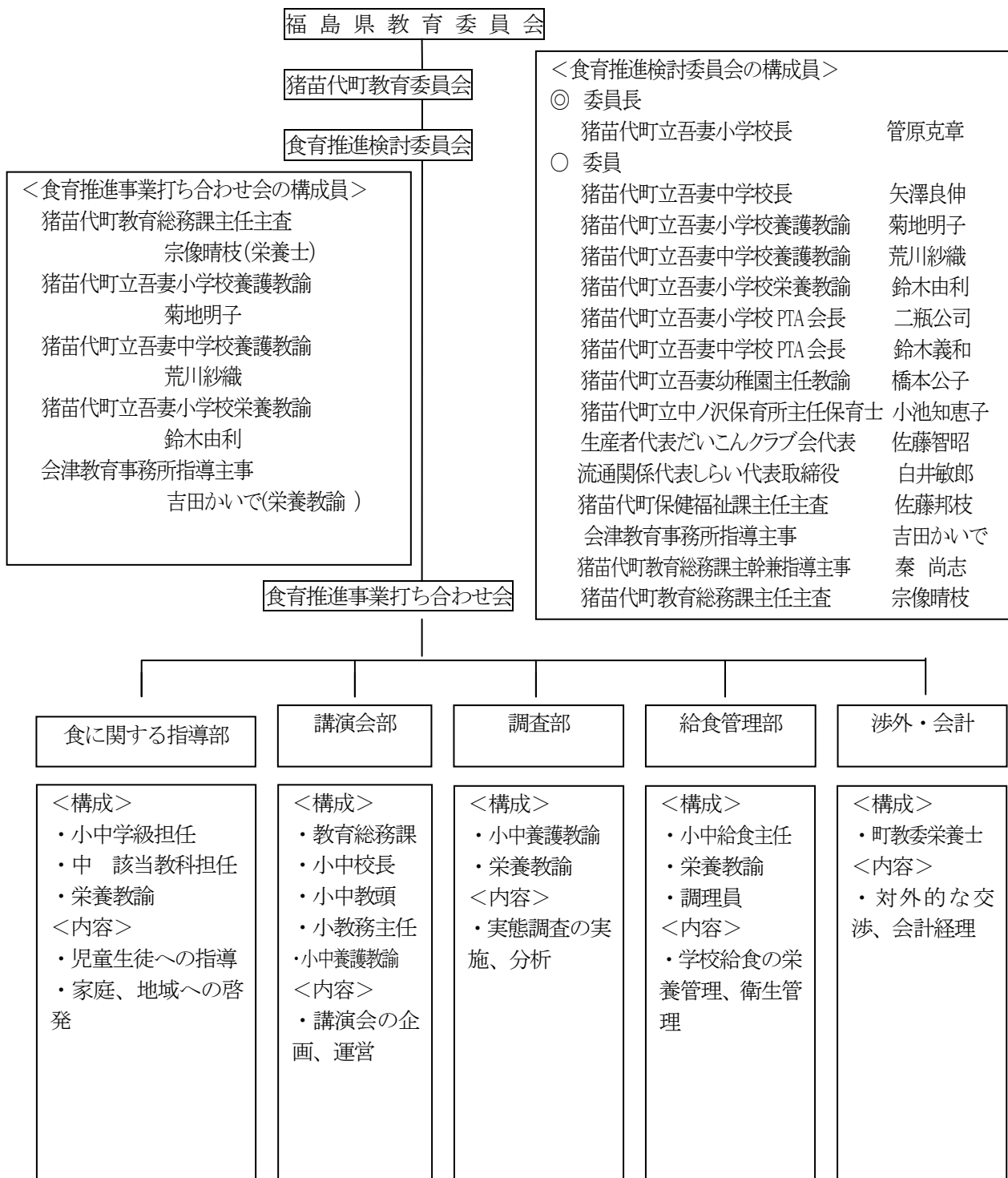


# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	福島県
推進地域名	猪苗代町吾妻地区

## 1. 事業推進の体制



## 2. 具体的取組等について

### テーマ1 各教科等や給食の時間における望ましい食習慣の形成を目指した取組み

#### 1 健康のために野菜を食べる大切さを学ぶ学習をとおり、望ましい食習慣の形成を目指す。

福島県では食に関する指導の目標を『ふくしまっ子食育指針』として

- ・ 食に関する知識や食を選択する力を身につけ、それを生かして自ら望ましい食生活を実践していく「**食べる力**」をはぐくむ。
- ・ 食をとおり、自然や人々とのかかわりの中で「**感謝の心**」をはぐくむ。
- ・ 福島の気候・風土に根ざした食文化を理解し「**郷土愛**」をはぐくむ。

の3つ掲げており、それを受けて本校でも「食べる力」「感謝の心」「郷土愛」をキーワードとした食育全体計画を作成し、それに基づいて望ましい食習慣の形成をめざすことにした。

- (1) 各教科や学級活動での指導。
- (2) 給食の時間の指導。
- (3) 給食の時間における献立等の紹介。
- (4) 食に関する個別的相談指導での偏食傾向等の改善指導。



#### 2 健康で過ごすための1日の生活の仕方を見直す学習をとおり、肥満傾向改善に対する学校全体の意識の高揚を図り、望ましい食習慣の形成を目指す。

- (1) 学級活動における自己決定への支援。
- (2) 全校集会での指導。

#### 3 毎日の給食指導を通し、正しい箸の持ち方や食べる姿勢などの食事マナーの定着を図る。

- (1) 正しいはしの持ち方の指導。
- (2) 正しい食器の置き方の指導。

#### 4 学校給食が食育推進のための生きた教材として活用できるように、調理方法の工夫や献立内容を改善する。

- (1) 家庭で不足しがちな豆類・いも類などの積極的な導入。
- (2) 昨年度の学校保健委員会で学校歯科医よりかむことの大切さを提言されたことを受け、かみごたえのある献立を、毎月8がつく日にカミカミメニューとして設定。
- (3) 受配校の教育計画や健康教育目標に合わせ、運動会・中体連・新人戦応援メニューや歯の衛生週間・目の愛護デーにちなんだ献立の設定。
- (4) 旬の食材や地場産物を積極的に取り入れた献立や端午の節句、彼岸、十五夜などの行事食の設定。
- (5) 小学校1年生がさやをむいたグリーンピースを使った「グリーンピースご飯」の設定。
- (6) リクエストメニューの設定。
- (7) 県学校給食会主催の『学校給食における米粉パン普及推進事業』に参加し、10月と1月に米粉パンを導入。
- (8) 煮干し、かつお節、昆布などでしっかりだし汁を取った調理の実施。
- (9) これまで蒸していたギョウザにごま油をまぶして蒸し焼きすることで、パリパリとした食感が得られるようにするなど、スチームコンベクションオーブンの機能を生かした調理の工夫。
- (10) 会津保健所の巡回指導結果から作業工程表や洗浄消毒作業などの見直しを行うとともに、安全で衛生的な給食のあり方を調理員と常に話し合いながら、改善策を検討。




## テーマ2 家庭と連携した望ましい食習慣の形成を目指した取り組み

- 1 県内一斉に取り組む「朝食摂取率100%週間運動を活用し、望ましい朝食内容の啓発を図る。
- 2 給食試食会や家庭教育学級で食育講話を開催し、学校給食の食事内容や味付け、バランスがとれた食事のとり方などについての理解が深まるようにする。
  - (1) 給食試食会の開催。

1回目	7月3日(金)	※授業参観日	第1学期末懇談会	(1,2年生保護者対象)
2回目	9月10日(木)	※フリー参観日	祖父母学級	(3,4年生保護者対象)
3回目	3月5日(金)	※授業参観日	学年末懇談会	(5,6年生保護者対象)
  - (2) 小中合同家庭教育学級の開催。  
平成21年6月2日(火)

## テーマ3 地域と連携した望ましい食習慣の形成を目指した取り組み

- 1 地場産物の学校給食への導入を推進する。
- 2 幼稚園や保育所と連携し、箸の持ち方や食べる姿勢などの食事マナーの定着を図る。
- 3 放課後児童クラブ主催の料理教室を支援する。

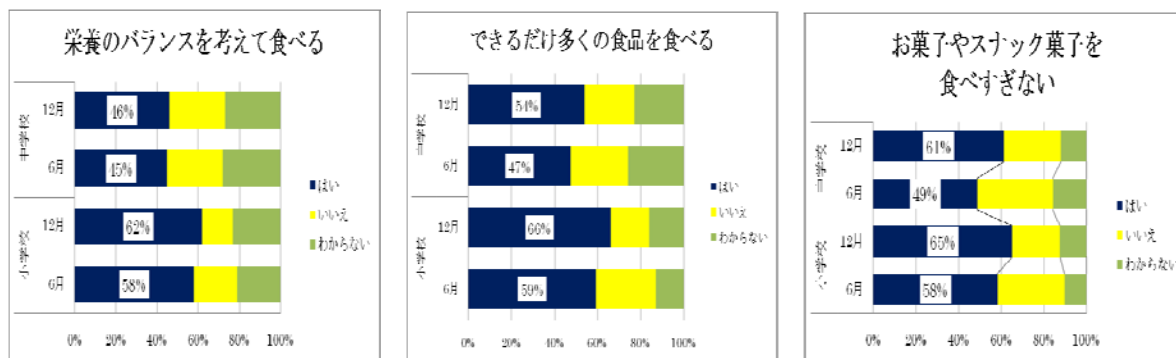
## テーマ1～3に共通する具体的計画

- 1 食育講演会を開催する。
  - (1) 実施日 平成21年7月5日(日) 午前10時～
  - (2) 講演者 中京大学教授 湯浅景元氏  
「スポーツと食事」
  - (3) 参加者 吾妻小中学校児童生徒及び保護者、教職員、猪苗代町内住民
- 2 先進校を視察する。
  - (1) 実施日 平成21年10月26日(月)～27日(火)
  - (2) 視察先 福井県小浜市教育委員会  
福井県小浜市立小浜小学校
  - (3) 参加者 会津教育事務所指導主事(栄養教諭) 吾妻小学校長 吾妻小学校栄養教諭 吾妻中学校養護教諭
- 3 児童生徒の食生活等実態調査を実施する。
  - (1) 実施日 第1回…平成21年6月8日(月) 第2回…平成22年12月14日(月)
  - (2) 調査対象 吾妻小・中学校 全校児童生徒及び保護者全員

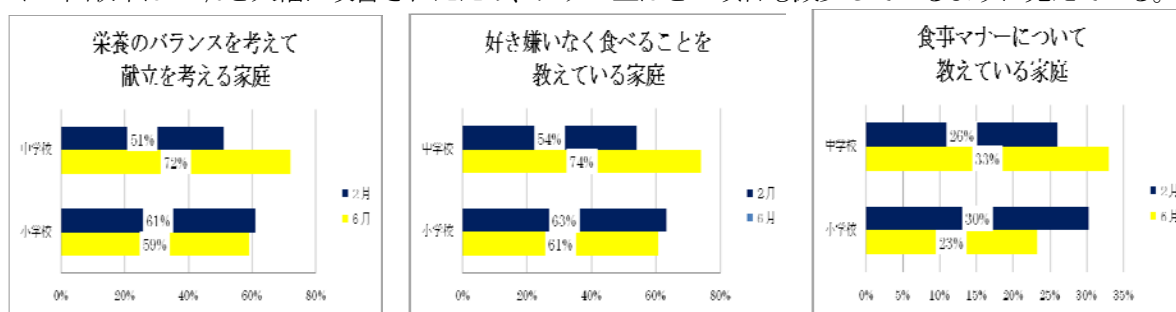
## 数字で変化のあった事項について

### 1 児童生徒や保護者の望ましい食習慣を身に付けようとする意識が向上した。

(1) 児童の望ましい食習慣を身に付けようとする意識が高まり、6月と12月に行った『児童生徒の食生活等実態調査結果』を比較すると、食事のときに、栄養のバランスを考える児童は4ポイント・生徒は1ポイント、できるだけ多くの食品を食べる児童・生徒はともに7ポイント、お菓子やスナック菓子を食べすぎないようにしている児童は7ポイント・生徒は12ポイント、それぞれ増えた。

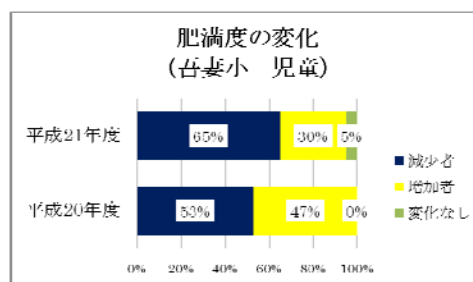


(2) 家庭での食に関する意識が高まり、栄養のバランスを考えて献立を決めている家庭は小学校で3ポイント、好き嫌いをなく食べることを教えている家庭は小学校で2ポイント、食事マナーを教えている家庭は小学校で7ポイントそれぞれ増加した。なお、中学校については6月のアンケートの回収率は56%だったが、2月のアンケートの回収率は87%と大幅に改善されたため、グラフ上はどの項目も減少しているように見えている。



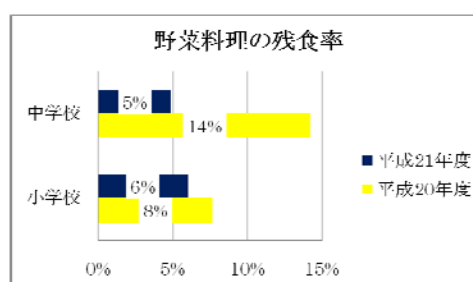
### 2 肥満傾向児童が減少した。

小学校では児童の肥満傾向が改善し、4月初とと比較した1月の身体測定結果では、肥満傾向児童のうち、65%の児童の肥満度が低下。また、昨年度は、同期間に肥満度が低下した児童は53%であることから、肥満度の減少率が高いといえる。



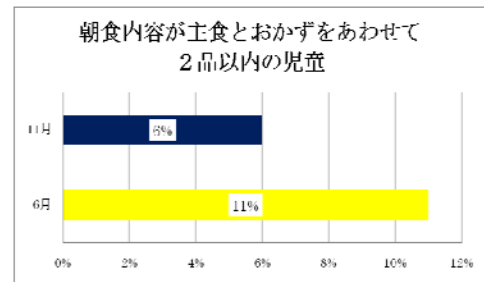
### 3 学校給食の残食率が減少した。

○ 給食のあえ物の残食率が改善し、4～12月の平均で平成20年度と比較して小学校は2ポイント、中学校は9ポイント低下した。



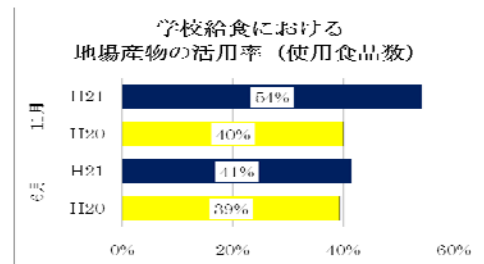
#### 4 朝食摂取率と内容が向上した。

- 小学校では朝食摂取率が向上し、6月と11月に行った『朝食摂取率100%週間運動』において、11月の朝食摂取率は6月と比較して1ポイント増加し、100%の児童が朝食を摂取した。また、朝食内容も改善され、主食とおかずをあわせて2品以内のものを食べている児童が5ポイント減少し、おかずの品数が増えた児童が66%増加した。



#### 5 県内産地場産物の活用率が向上した。

地域社会の地場産物に対する関心が高まり、学校給食への食材提供を行う生産者や使用品目が増えた。特に11月は猪苗代町産の野菜の使用率が食品数ベースで54%となり、福島県が目標としている40%を上回った。



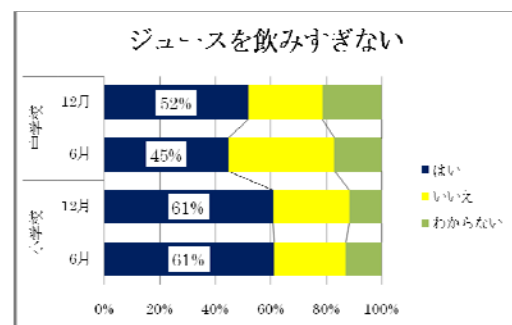
### 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- ・ 各教科や学級活動の時間に担任とのT・Tによる指導や当日使う地場産物を展示することにより、食への関心・意欲が高まり、好ききらいを減らしてバランスよく食べる児童生徒が増え、給食の食べ残しが減った。特に中学校では、栄養教諭がひとりひとりに声をかけながら各クラス内で分け残ったおかずを配膳したところ生徒の食べる量が増え、サラダ・あえ物の残菜率は半減した。さらに、2学期以降は給食当番の生徒の配膳方法が向上し、分け残り量も減った。
- ・ 望ましいおやつとり方について、学級活動における自己決定への支援や給食の時間における個への働きかけの充実、全校集会で働きかけることにより学級や学校全体の意識が高まり、肥満度が下がった児童が増えた。
- ・ 学級活動で児童が取り組んだワークシートに家庭からのコメントをもらうようにしたり、給食だよりや給食試食会などで、バランスがとれた朝食の大切さを繰り返し伝えたりすることにより家庭での食への関心が高まり、朝食摂取率や朝食の食事内容が改善された。
- ・ 地元で収穫される野菜について、栄養教諭が保護者や地域から積極的に情報収集を行うことにより、地域の地場産物に対する関心が高まり、学校給食への食材提供を行う生産者や使用品目が増えた。

### 今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

#### 1 健康課題について

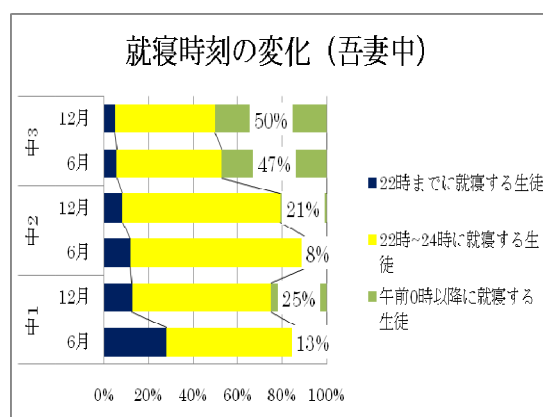
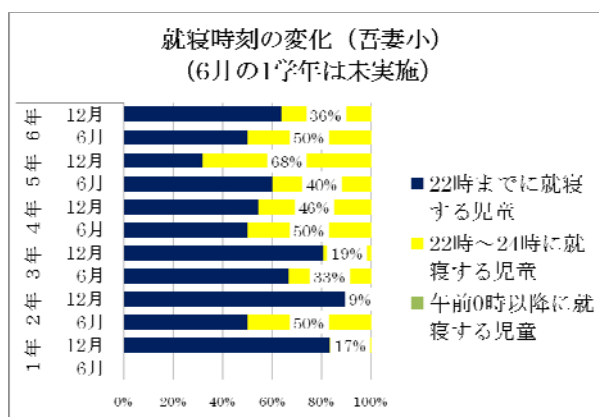
- ・ 小学校では、4月当初と比較した1月の身体測定結果で肥満度が上がった児童が5%、新たに肥満傾向になった児童が2%いる。また、6月と12月に行った『児童生徒の食生活等実態調査結果』ではジュース等の飲みすぎについて気をつけていない児童は増加している。
- ・ 色の濃い野菜を食べる児童は2%増加したが、生徒は7%減少、1日3回の食事を必ず食べようとする児童は3%増加したが、生徒は3%減少してしまい、小・中学校に格差があった。



- ・ う歯の罹患状況の改善を目指した取組みは、養護教諭を中心に歯磨きの仕方等を重点項目として指導をすすめたが、う歯の進行や新たなう歯の罹患などの課題をもつ児童が見られる。

- ・ 12月に行った児童生徒の食生活等実態調査結果では、22時以降に就寝している児童は、1学年17%、2学年9%、3学年19%、4学年46%、5学年68%、6学年36%いる。また、午前0時以降に就寝している生徒は、1学年25%、2学年21%、3学年50%いる。さらに、睡眠不足を心配している保護者は、小・中学校ともに14%いる。

これらのことから、就寝時刻の改善を通して生活リズムを整えることで肥満傾向やう歯の罹患率の改善につながるよう、家庭だけでなく幼稚園や保育所との連携をさらに深め、学校や地域全体の意識向上を図る必要がある。また、併せて個別的相談指導の充実も必要である。



## 2 食事マナーについて

正しいはしの持ち方を含めた食事マナーについては、改善できるように家庭と連携して取り組む必要がある。

## 3 学校給食の質の向上について

選択メニューや国際理解のための献立については取り組みが不十分であるので、外国語活動や11月に行われる野口英世誕生祭などの教育活動と関連づけてたり、食育の日を活用して外国の料理や他地域の郷土料理を取り入れたりして、計画的に実施できるようにする。

## 4 地域との連携について

学校給食で多品目の地場産物の継続的な提供が受けられるように、組織的な体制整備が必要である。